

JF職員が見た中国

## 近未来都市に溢れる日本アイテム

横田有紀 [よこた ゆき]

在上海日本国総領事館副領事（ジャパンファウンデーションから出向中）

今から5年前、学生時代に北京へ留学していたころ。中国は私にとってまったくの異次元だった。黄砂が舞う街のなかには、あちこちで立ち退きや取り壊し工事が進みつつも、まだのんびりした雰囲気が残っていた。道ばたには食べ物売りの屋台が並び、人民服を着たおじいさんが子どもの手を引いて歩いていた。車が行き交う大通りで突然口バが引く大きな荷車とすれ違い、びっくりしたこともある。

そんななか、日本はまだまだ遠い存在だった。タクシーの運転手さんと話していたら、「どこから来たんだ？ 日本？ ところで、日本って列車でも行けるのか？」と聞かれ、市場で日本語を喋っていたら、店番のおばさんに中国の少数民族と間違えられた。休暇中に一時帰国した際は、成田空港に降り立った瞬間、タイムスリップをしてはるか彼方から戻ってきたような気がした。

2005年、上海。近未来的デザインの高層ビルが建ち並ぶこの街には、推定7万人以上もの日本人が滞在している。赴任当初、自分が中国慣れしていたことを差し引いても、拍子抜けするくらい「外国感」がなかった。街のあちこちに日本食レストランが並び、日系スーパーやデパートもある。若者の間では、日本発の流行ファッション、ポップスやアニメが大人気だ。就職やキャリアアップの武器にしようと日本語を学ぶ人も多い。スーツ姿の上海人ビジネスマンが、携帯電話を片手に流暢な日本語を話しているのを見かけることも珍しくない。

人によって、世代によって、「日本」に対する思いや考えはいろいろあっても、ここ上海で、日本が身近な外国であることは確かだ。

それでは、日本文化のどんな側面を伝えていくべきなのだろう。伝統的な茶道や生け花から現代を象徴するアニメやハイテク製品まで、一口に日本文化といっても実にさまざまだが、よく見れば共通点がたくさんある。昔からの相手を思いやり、もてなす心は、利用者の立場で考えられた使い勝手のよい日本製品へ。手間暇を惜しまない職人気質は、細かく丁寧なファッションデザインやアニメ作品に。自然を大切に作る心からは、季節感溢れる美しい和菓子が……。

中国の人たちに日本のさまざまな文化を楽しんでもらいながら、こうした日本の考え方、日本文化の背景をこれからももっともっと伝えていきたい。